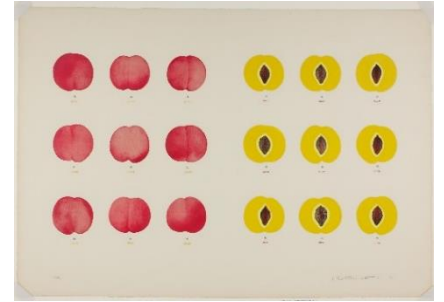


2016 年度ミニ企画展 第3期 会期:2016 年 9 月 24 日(土)~12 月 25 日(日)

オリンピック・パラリンピック文化プログラムに向けて
~まちだゆかりの作家~

まつもとあきら
松本 旻

4年後に迫った「オリンピック・パラリンピック東京大会」。町田市立国際版画美術館では多くの方々に町田に迎えるに当たって、町田市の地域資源を再考・紹介する取り組みを実施していきます。常設展示室では今年度より毎年 1 回、町田市ゆかりの美術家を紹介するミニ企画展を開催します。第一弾で取り上げるのは松本旻(1936 年生まれ)です。大阪府能瀬町出身の松本は、1970 年から 98 年まで町田市で暮らしていました。本展では当館所蔵の版画作品を制作年に沿って展示し、作家の軌跡を辿ります。



No.11《植物図鑑 桃-B》

浮世絵の摺師からのスタート

松本は伝統木版の摺師出身という、現代美術家として珍しい経歴の持ち主です。16 歳から約 3 年間、京都の木版摺師の元で働き、1956 年に上京、渡辺版画店に摺師として就職します。この間に木版の創作に目覚めてデッサンを学び、職人的摺師から版画家への転向を図りました。1958 年に第 26 回日本版画協会展に初入選しますが、翌年は肺結核を患い約 1 年間入院生活を送ります。入院中には、かねてより関心を持っていた油彩画を描き始め、ほとんど独学で習得します。その後は積極的に絵画・版画作品を発表し、美術家としてのキャリアを切り開いていきました。

富士山から何の変哲もない風景へ

町田市に住み始めたのは 1970 年。この前後から、松本の活動は大きく飛躍していきます。日本の伝統を踏まえつつ、ポップ・アートの次を先取する手法で新しい風景画を創造する意図から、まず伝統的画題である富士山を取り上げます(No.8,9)。日本人なら誰もが感じる富士山の叙情性をあえて消し去ることが目的でした。次に選んだのは一転して何の変哲もない風景です。《風景から》シリーズでは写真やペインティング、リトグラフ、写真製版で 3 原色に分解した網版のスクリーンプリントなど、多種多様な技法を試みました。またモアレなど一般的には印刷ミスとして切り捨てられる効果を意図的に発生さ

せ、印刷プロセスのバリエーションを作品として見せます。このシリーズで松本は 1975 年第 11 回リュブリアナ国際版画ビエンナーレでグランプリを受賞し、写真表現を使った最前線の美術家として注目を浴びました。

「植物」と「色点」

色気を漂わせる植物のドローイングに基づく《植物図鑑》(No.10,11)は、無機質な表情を見せる作品が多い松本の仕事の中で異質に映るかもしれません。しかしこのシリーズのコンセプトである「商品としての価値が付与されていたものを数多く並べ、その意味性を剥奪する」行為は、後の色点のシリーズに繋がっていきます。カラーチャート(色見本)を作品化した《配色》(No.17~20,23~26)は、色点を任意の順列に並べ、その結果発生したモアレのような模様が見る者の目を眩ませる作品です。自ら開発したシステムに則って作品を増殖させる行為そのものに焦点をあて制作されました。

苦行のような行為の末に

松本の作品の背後には反復作業とそれにかかった膨大な時間があります。作家にとっては行為自体に意味があり、システムに従った機械として自己を消滅させていくことを目的化しています。展示作品最後の《転回》(No.27~31)はその行為が極限まで達した集大成の一つです。

浮世絵 玉手箱

松本旻の《富嶽 12 色》にちなみ浮世絵に描かれた富士山を紹介します。3 図はいずれも富士山と三保の松原を題材にしたもの。No.2 にはこの地にまつわる羽衣伝説が、No.3 には松原越しに富士を眺める武田信玄が描かれています。

1 歌川広重	富士三十六景 駿河三保之松原	安政5年(1858)	大判錦絵
2 三代歌川豊国・歌川広重	双筆五十三次 江尻	安政元年(1854)	大判錦絵
3 月岡芳年	きよみかた空にも関のあるならば月をとめて三保の松原	明治19年(1886)	大判錦絵

出品リスト

NO.	タイトル	制作年	技法	サイズ(cm)
1	黒い貌	1961年	木版、紙版	59.0×43.5
2	白い手袋の貌	1962年	木版	63.0×46.5
3	しゃらくの勲章	1964年	木版	61.5×45.5
4	新聞(4)	1966年	木版	60.8×45.5
5	新聞(8)	1967年	木版	61.5×45.5
6	Print(12)	1968年	木版	62.0×58.0
7	黄色いカレンダー	1969年	オフセット	72.0×50.0
8	富嶽12色(群青)	1971年	銅凸版、木版、スクリーンプリント	66.6×48.5
9	富嶽12色(黒)	1971年	亜鉛凸版、木版、スクリーンプリント	66.6×48.5
10	植物図鑑(もも)	1971年	亜鉛凸版	64.5×50.0
11	植物図鑑 桃-B	1972年	亜鉛凸版、木版	63.0×90.0
12	風景から 4-J	1974年	スクリーンプリント	47.5×59.5
13	風景から 4-L	1974年	スクリーンプリント	47.5×59.5
14	風景から 4-M	1974年	スクリーンプリント	47.5×59.5
15	塔-G	1978年	スクリーンプリント	46.0×59.5
16	風景(煙突)	1978年	スクリーンプリント	42.5×60.5
17	配色(8色の-2)	1980年	スクリーンプリント	47.0×63.0
18	配色(10色の-1)	1980年	スクリーンプリント	47.0×63.0
19	配色(12色の-1)	1980年	スクリーンプリント	47.0×63.0
20	配色(6色の-2)	1981年	スクリーンプリント	47.0×63.0
21	エリア(2-2)	1982年	スクリーンプリント	32.5×47.0
22	エリア(2-3)	1982年	スクリーンプリント	33.5×47.0
23	配色(四角の方向-4)	1983年	スクリーンプリント	53.0×80.0(紙)
24	配色(対比-1)	1984年	スクリーンプリント	50.0×80.0(紙)
25	配色(対比-2)	1984年	スクリーンプリント	50.0×80.0(紙)
26	配色(対比-4)	1984年	スクリーンプリント	50.0×80.0(紙)
27	転回 W-13(青)	1994年	木版	80.0×80.0
28	転回 W-13(赤)	1994年	木版	80.0×80.0
29	転回 W-13(黄)	1994年	木版	80.0×80.0
30	転回 W-13(グレイ)	1994年	木版	80.0×80.0
31	配置(転回 W-13)	1994年	木版	80.0×80.0
32	樹は地下の純色を吸い上げている (版画集『版画とことばと-Ⅲ 樹景』 町田市立国際版画美術館発行 収録)	1993年	スクリーンプリント	36.5×54.8
33	葉と幹(No.32 同版画集 収録)	1993年	木版	26.7×26.7

畦地梅太郎コーナー

海岸〔南国海岸〕	1927年頃	木版	14.6×18.5cm
山湖	1956年	木版	30.1×42.0cm
会議	1960年	木版	36.0×54.8cm
ぬくもり	1975年	木版	39.1×28.6cm

次回予告 シリーズ現代の作家 追悼・木村利三郎
2017年1月5日(木)～4月9日(日)

2016年9月24日発行
〒194-0013 東京都町田市原町田4-28-1
町田市立国際版画美術館 <http://hanga-museum.jp/>